

宣言 (草案)

我等電球産業労働者は容易ならざる電球産業に直面してゐる我が國の電球工業は由來輸出産業として發達して來たものであるが世界の經濟的鎖國化政策の現はれてある關稅競争は日本製品の進出を隨所に於て阻止しつゝあり電球の輸出も亦其の厄を蒙つてゐる一例を舉げれば電球輸出の最大顧客たる米國はその産業復興運動と並行して日本電球驅逐策に出て居り更に最近著しく電球輸出の増大を見つゝあつた印度も日印通商條約の破毀によつてこの進路も完全に塞がれるに至つたのである

世界に漲るこの様な經濟鎖國化の現象は大勢動かし可からずとして日本も日本の電球業者は之に對して如何なる對策を持つてゐるか低價替の波に乗るダンピング政策以外に何等の方策を持たないのであるしかも採算を無視したこのダンピング政策を強行し得るのは大資本を有

する(マツダランプの如き)に限られ中小工場主は之と競争しやうとして持物賣買引下等競争を以て行はざるを得ない此の競争を遂行してこの難關を突破せんとしてゐるが労働者組織の下に行はれる姑息なる手段を以てしては到底海外市場閉塞とダンピング競争に勝つ事は出来ず日本の電球産業は今や破滅の一途をたどりつゝあるのみであるかくて日本電球産業には最早更生の道はないのか然らず世界的傾向であるこの高關稅政策と闘ふ爲にはひとり電球のみといはずあらゆる輸出産業を國家統制の下に置き貿易を管理し製品の規格を定め業者亦品質向上に念慮し優秀品を製作して世界到る所日本製品ならではの定評をかり得るまでにしたならば關稅の障壁位何程の事があらうもとよりかゝる優秀品の製造は労働者が今日の如く酷使虐待の下にあつて絶間なく藝ひかゝる失業の不安におのゝきつゝある現状を以てしては到底不可能な事である